

在家尼女房章(五帖第三通)

それ、在家の尼女房たらん身は、なにのようもなく、一心一向
に阿弥陀仏をふかくたのみまいらせて、後生たすけたまえと申さ
んひとをば、みなみな御たすけあるべしとおもいとうて、さらに、
疑のこころゆめゆめあるべからず、これすなわち、弥陀如来の御ち
かいの、他カ本願とは申すなり、このうえには、なお後生のたすか
らんことの、うれしさありがたさをおもわば、ただ南無阿弥陀仏
南無阿弥陀仏と、となうべきものなり、

あなかしこ あなかしこ

在家尼女房章の大意

在家の身下み仏の教えを聞く女性は、自力のはからいを捨て、一心に阿弥陀如来を深くたのみ、後生をおたすけくださとおまかせするならば、み仏はみなお救いくださると信じ、疑いの心があつてはなりません。これが阿弥陀如来の他力本願ということですから。

そのように信心を得た後に、浄土に往生させていただくうれしさありがたさを思うなら、ただ南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏と称えるべきです。